

# I 北海道・東北

普及・啓発活動／安全利用教室

## 全国情報セキュリティ啓発キャラバン インターネット安全教室

北海道／北海道情報セキュリティ勉強会

団体略称	せきゅぼろ
団体人数	【総数】10人（内ボランティア人数／10人） 【主な年齢層】20～50代 ※上記のうち、青少年のインターネット環境整備に係る活動の従事体制 【総数】10人（内ボランティア人数／10人）

### ◆団体の主な活動

- 情報セキュリティ技術に関する、学生、技術者向け勉強会
- 情報セキュリティ啓発に関する、一般利用者向け勉強会

### ◆団体沿革

- 平成21年 任意団体「北海道情報セキュリティ勉強会」結成 第1回勉強会開催
- 平成22年 JNSAインターネット安全教室共催団体 加盟
- 平成26年 北海道地域情報セキュリティ連絡会 加盟

### ◆青少年のインターネット利用環境に係る活動目的・背景

#### 目的

北海道地域における情報セキュリティ意識の向上および、地域、世代、立場の垣根を超えて、情報セキュリティに携わる人と人との交流を図っていく。

#### 活動の背景

当団体は、北海道における技術者を中心とした、情報セキュリティに携わる人々の交流および情報セキュリティ技術の知識共有を目的に発起した。しかし、昨今インターネットが広く社会に普及したことを踏まえ、情報セキュリティに携わる技術者の立場から、技術者のみならず一般の利用者にも広く情報セキュリティ知識の共有を実施していきたいと考え、インターネット安全教室をはじめとした情報セキュリティ啓発活動を開始するに至った。

### ◆主な活動内容

活動分類	普及・啓発活動 / 安全利用教室
事業名	全国情報セキュリティ啓発キャラバン インターネット安全教室
活動の対象	保護者、青少年（未就学児・小学生・中学生・高校生）、教員、地域住民
対象人数	1回あたり概ね10～100人
活動場所	地元イベントなど
活動の頻度	年に2～3回 【1回あたり概ね3～4人が従事】

### 具体的な活動内容

インターネット安全教室は、家庭や学校からインターネットにアクセスする一般利用者を対象としたセミナーであり、本セミナーでは、基礎的な情報セキュリティ知識をビデオ教材等により楽しく身につけることができる。教材、講義の内容は、インターネットやパソコンの初心者でも分かるように作成されているが、利用者だけではなく、パソコンやインターネットの利用法を指導する立場にある方々にとっても参考となるような内容となっている。

平成 28 年度の開催実績としては、釧路市、富良野市、中標津町の 3 カ所でセミナーを開催し、延べ 100 人以上の参加があった。



### 活動の特色

当団体が開催するインターネット安全教室では、主な受講者層（児童・学生向け、保護者向け、教員等指導者向け）によって、毎回スライド資料やセミナー内容を柔軟にカスタマイズしており、受講者がより自分に合った情報セキュリティ知識を習得できるよう、心掛けている。

### 他団体や行政との連携

- ・一般社団法人 LOCAL ・北海道地域情報セキュリティ連絡会 ・独立行政法人情報処理推進機構
- ・特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会
- ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

### 活動による効果

- ・インターネットを利用するにあたって最低限身に付けておくべき知識、マナーを習得できる。
- ・受講者が知識と教材を持ち帰り、家庭、学校、職場など、より身近なところから広めることによって、それぞれの年代、場所においても情報セキュリティ啓発の波及効果が期待できる。

## ◆団体の課題・今後の予定

### 団体の課題

- ・活動資金（主に遠隔地開催における交通宿泊費および会場費）の不足。
- ・普段インターネットをあまり利用しない層へのセミナーの宣伝、集客。

### 団体の今後の予定

今後も引き続き、インターネット安全教室の開催を通して、北海道における情報セキュリティ意識の向上に向けて活動を行っていく。

**普及・啓発活動****北海道内における情報セキュリティ関連イベントの開催支援****北海道／一般社団法人LOCAL**

団体略称	LOCAL
団体人数	【総数】22人（内ボランティア人数／22人） 【主な年齢層】20～50代 ※上記のうち、青少年のインターネット環境整備に係る活動の従事体制 【総数】5人（内ボランティア人数／5人）

**◆団体の主な活動**

- 情報技術に関わる会議、勉強会、展示会等の主催、運営
- 情報技術に関わる団体の勉強会、展示会等の支援、運営協力
- 情報技術に関わる人的交流会の主催、運営および運営協力
- 情報技術に関する教育活動、広報活動

**◆団体沿革**

- 平成20年1月 「任意団体LOCAL」結成
- 平成21年2月 LOCAL DEVELOPER DAY '09/Winter 開催 以降年に2～3回開催
- 平成21年4月 「一般社団法人LOCAL」設立
- 平成21年10月 情報処理推進機構（IPA）2009年度日本OSS奨励賞 受賞
- 平成28年10月 北海道地域情報セキュリティ連絡会 加盟

**◆青少年のインターネット利用環境に係る活動目的・背景****目的**

当団体は、北海道における技術系地域コミュニティ（ユーザー会、勉強会等）の活動を支援し、地域を盛り上げていくことを目標とする有志の集まりである。主な事業として学生、技術者向けの技術セミナーやイベントの企画、運営支援を行っているが、近年、インターネットやスマートフォンなどの急速な普及に伴い、技術者だけではなく、青少年をはじめとした一般の利用者にも情報セキュリティの知識が不可欠となっている。そこで、技術者と利用者、双方の面から情報セキュリティ意識の向上を図りたいと考え、北海道内で情報セキュリティ啓発を行う団体を支援する活動を行っている。

**活動の背景**

北海道内の団体やコミュニティが勉強会やセミナーを行う際に大きな問題となるのは、講師手配の問題である。情報セキュリティの話ができる講師が東京に一極集中している現状を改善したいという要望から、その受け皿となる活動グループとして「LOCAL 安全部」を発足し、講師育成、スタッフ育成へ向けた取り組みを開始し、道内外の団体との協力体制を形成するに至った。

**◆主な活動内容**

活動分類	普及・啓発活動
事業名	北海道内における情報セキュリティ関連イベントの開催支援
活動の対象	特定の対象を問わず、依頼の都度検討
活動場所	地元イベント
活動の頻度	年に4～5回程度【1回あたり概ね3～4人が従事】

### 具体的な活動内容

北海道内外の団体、コミュニティが北海道内で開催する情報セキュリティ関連イベント、セミナーにおいて、講師およびスタッフの派遣、イベント内容の企画など、「こんなことをやりたいがどうしたらよいか？」という段階から相談に乗り、イベント開催に向けた運営支援を行っている。主な例として、平成28年度は以下のような情報セキュリティ関連イベントの運営支援を行った。

#### 「全国情報セキュリティ啓発キャラバン インターネット安全教室」講師・スタッフ派遣

開催地：釧路市、富良野市、中標津 <http://www.local.or.jp/2016/02/4979.html>

#### 「高校生 ICT Conference in 札幌」へのファシリテーター・スタッフ派遣

開催地：札幌市 <http://www.local.or.jp/2016/06/5209.html>

#### 「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」の主催・スタッフ派遣・学生へ交通費支援

開催地：札幌市 <http://www.local.or.jp/2016/09/5454.html>

#### 「サイバーセキュリティフォーラム北海道」への出展

開催地：札幌市 <http://www.local.or.jp/2017/02/6011.html>



### 活動の特色

情報セキュリティに関連する事項であれば、一般のインターネット利用者、学生、技術者向けを問わず、様々なイベントやセミナーの企画、開催支援を行っている。

### 他団体や行政との連携

- ・北海道情報セキュリティ勉強会・北海道地域情報セキュリティ連絡会
- ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

### 活動による効果

北海道内外の団体が、北海道でイベントを開催する際の相談先、受け皿としての役割を担っており、各種イベントの企画、開催協力を通して、地域や世代を越えてより良い関係を築ききっかけとなっている。

### ◆団体の課題・今後の予定

#### 団体の課題

- ・活動メンバーの固定化、高齢化
- ・活動資金（主に遠隔地開催における交通宿泊費）の不足

#### 団体の今後の予定

今後も引き続き、北海道内の各団体が開催する情報セキュリティ関連イベントへの支援を通して、北海道における情報セキュリティ意識の向上と情報セキュリティ人材の育成に向けて活動を行っていく。

普及・啓発活動／安全利用教室

## スマホ・ネット安全教室

青森県／学職開発株式会社

団体略称	まなビレッジ
団体人数	【総数】5人 【主な年齢層】20～50代
	※上記のうち、青少年のインターネット環境整備に係る活動の従事体制 【総数】3人

### ◆団体の主な活動

- まなビレッジ運営／学習塾、パソコン教室、職業訓練委託校
- 教育支援講師派遣／スマホ・ネットの安全教室 プログラミング入門
- 各種研修就労支援事業／パソコン・ビジネスマナー・タブレット・ビジネス会話など
- 紙媒体・ホームページ／デザイン・制作

### ◆団体沿革

- 平成24年3月 「学職開発株式会社」設立
- 平成25年 スマホ・インターネット安全教室 講師派遣 開始
- 平成26年 プログラミング イベント事業 開始

### ◆青少年のインターネット利用環境に係る活動目的・背景

#### 目的

- ・スマホ・ネットを安全に便利に活用するための知識を身につける。
- ・事例に触れることによって、今まで気が付かなかったマナー違反や危険を再認識。
- ・敬遠しがち、子供に任せっきりではなく、保護者・教職員も一緒に考える機会の提供。
- ・「使わせない」「使わない」ではなく安全で便利に使う術を大人と子供が共有できる機会を増やす。
- ・ネットユーザーとして節度のある使い方を身につけ、ネット社会の仕組みを知り、技術提供できる人材を育成。
- ・子供たちに教える側の知識、モラル教育の普及・人材育成。

#### 活動の背景

学習塾に通う塾生の保護者の方からの相談がきっかけとなり、ネット活用の状況を調査の上、子供たちから直接ヒアリングしたところ、あまりにも無防備にネットを使用していることが分かった。長期休みの際などに、塾生にタブレットを使用させたところ、検索履歴や使用時間などが管理できていないことが分かった。さらに、企業等のパソコンサポートに出かけた際にも、スマホについて、子供の知識についていけない、説明ができないという相談を受けた。子供たちのプログラミング教育の普及について企画していた時期であったため、技術者の育成と、インターネット等のネット環境を安心安全に使うことができるユーザーとしての教育、両面からアプローチするという方針で企画をたて、八戸市の教育委員会へ出前授業の提案を行った。技術者の育成よりもスマホ・ネットの安全教育が急務であるとのご意見をいただき、教育機関での講演・授業カリキュラムを作成した上で、再度提案し、講演活動などを開始した。

### ◆主な活動内容

活動分類	普及・啓発活動 / 安全利用教室
事業名	スマホ・ネット安全教室
活動の対象	小学生・中学生・高校生・保護者・教職員・地域住民・一般企業従業員
対象人数	1回あたり概ね20～100人
活動場所	学校での授業、授業参観時の講話、一般企業勉強会
活動の頻度	年に10回程度【1回あたり概ね1人が従事】

## 具体的な活動内容

(外部講師実績)

市内小中高等学校 16 校・市連合 PTA 研修会・青森県青少年補導センター研修会  
青森県青少年健全育成推進員及び命を大切にすることを育む声かけリーダー研修会  
おいらせ町職員対象研修会・一般企業、団体 3 社

## スマホ・インターネットの安全な使い方

対象／小学生・教職員

活動回数／年間 2～3 回程度

各学校より直接依頼。依頼は、夏休みや長期休み前、授業参観時などの依頼が多い。

5・6年生の教室で、危険性について授業を行い、実際にルールを提案してもらい、子供たちで話し合った後、保護者ともルールについて話をする時間をとっている。



## スマホ・インターネットに関する講演

対象／小学生・中学生・高校生 保護者・教職員

活動回数／年間 5～6 回程度開催

各学校より直接依頼。依頼は、夏休みや長期休み前、授業参観時などの依頼が多い。

体育館でネットトラブルの事例、安全な使い方、ルール作りについてスライドを使って講演。



## タブレットの使い方の指導

対象／小学生

活動回数／年間 2～3 回程度

長期休暇の際に、通いや合宿型の「おたすけ隊」を実施。

宿題、工作などの学校の課題を計画的に進めることと、時間を決めてタブレットを使用する・調べものをするなど上手な付き合い方を身につけることを指導。



## 青少年健全育成推進員及び命を大切にすることを育む声かけリーダー研修会

対象／青森県青少年健全育成推進員（八戸市・弘前市・むつ市・青森市・十和田市・五所川原市）

平均年齢 60 歳以上である推進員の方々向けに、スマホ・ネットをより身近に感じていただき、現在子供たちが直面しているトラブルについてより理解していただくための研修。

各地域に出向き、30～50 名の推進員の皆さま向けに、スマホ・ネットの世界の現状、トラブル事例を紹介するとともに、グループで実機を実際に見て触り、操作をしてトラブルについて話し合ってもらった。

## 活動の特色

- ・タブレット端末を持参し、アプリ操作やトラブル事例についてグループワークを実施。
- ・ネットやパソコン・スマホの世界について、ユーザー側の視点だけでなく、プログラミング学習とあわせて授業を行い、職業選択を意識した授業を実施。
- ・1 学年や 1 学級など人数が少ない場合には、課題を出し一緒に考える時間をとり発表してもらう。
- ・保護者の方が参加している場合には、一緒に話し合いルール作りを行う時間をとる参加型の授業。
- ・夏休みや冬休みには、一人でネットをする時間を減らすよう、「おたすけ隊」という名称で宿題をしたり、タブレットを使ったりといった一緒に過ごす時間や子供たちの居場所を提供。

### 他団体や行政との連携

・八戸市教育委員会 ・八戸市内小中学校 ・青森県環境生活部青少年 ・男女共同参画課

### 活動による効果

・講演終了後に、アンケートを実施している学校からは情報をもらっている。

#### 【生徒】

- ・あまり意識して使ったことはなかったが、とても危険なこともあるということが分かった。
  - ・これからは家族で話し合い、ルールを作って安全に使いたい。
- ※意識の変化がみられるコメントが多いが、まだまだ自分がトラブルに巻き込まれる危険があるということと結びつかない生徒も多い。

#### 【保護者】

- ・私知らない言葉を、多くの子供たちが知っていたので驚いた。
  - ・無知は恐ろしいと感じた。
  - ・中学校での授業に取り入れて欲しい。
- ※保護者などが、自分の知らなかった世界について知り、スマホを持たせることについて、よく話し合う必要があるという意識が広がりつつある。

### ◆団体の課題・今後の予定

#### 団体の課題

- ・スマホ・ネットとの関わりについては「優先的に取り組むべき課題である」との意識が高くなってきてはいるが、「有料」開催では参加者が増えていかない。集客・PRの方法をもっと工夫する必要がある。
- ・学校での講演の際「問題のある生徒の保護者に限って講演に参加してくれない」との話が出る。自分事として捉えてもらうため、学校や保護者、推進員との連携が必要。
- ・教育機関ではなかなか予算化されにくく、継続的な支援が難しい。単発の授業、講演では成果が見えにくい。
- ・アプリやシステム等は、日々進化しているため、最新の情報収集、提供の方法などマンパワーが必要。

#### 団体の今後の予定

大手企業や首都圏での取り組みを参考にしつつ、地域の特徴も踏まえたうえでの仕組みづくりに参加していきたい。

普及・啓発活動／安全利用教室／その他

ネットリスクの出前授業・講演・研修講座  
子どものネット・スマホの長時間接触による健康被害調査  
ネットアドバイザーの養成カリキュラム開発  
公開出前研究授業の実施とカリキュラム開発の成果公表

東京都・青森県／子どものネットリスク教育研究会  
(弘前大学「ネット&いじめ問題」研究会の継続組織)

団体略称	ネットリスク教育研
団体人数	【総数】46人(任意研究会のため、従業員はいない) 【主な年齢層】弘大ネットパト隊学生から教員、研究者の70代まで ※上記のうち、青少年のインターネット環境整備に係る活動の従事体制 【総数】46人

◆団体の主な活動

- ネット・スマホの長時間接触による、脳の発達障害・視聴神経等健康被害・ネット依存の調査研究
- 調査データ・最新の脳科学研究等を踏まえた、講演・出前授業用のカリキュラム開発・実施・検証
- いじめ、ネットいじめの実態調査研究と、コミュニケーショントラブル・いじめ克服指導、予防についての研究を踏まえた、講演、出前授業のカリキュラム開発と実施・検証
- 「有害情報」問題の調査研究と指導(学校)の実態調査、啓発教育プログラムの開発
- 研究会の併設組織である「弘大ネットパト隊」による青森県内の見守り活動、講演、調査活動の支援等

◆団体沿革

- 平成20年12月 学生ネットボランティア活動として、弘大ネットパトロール隊設立
- 平成21年7月 弘前大学「ネット&いじめ問題」研究会(当初プロジェクト)設立
- 平成27年5月 「弘前大学」の冠を外し全国組織として再発足

◆青少年のインターネット利用環境に係る活動目的・背景

**目的**

インターネット・スマホ利用により発生する、①有害情報・情報発信系問題、②誹謗中傷・ネットいじめ・コミュニケーショントラブル系問題、③脳の発達障害・視聴神経等健康被害・ネット依存系問題のリスクに対応した、安全使用のための啓発教材、出前授業(子供対象)・講演・研修会講座(指導者養成)のカリキュラム開発と、その理論的根拠を明確にする研究を行う。

**活動の背景**

代表者が弘前大学に在職中、弘前市教育委員会、中学校校長会、中学校生徒指導主任会から、市内学校の「学校裏サイト」の見守り活動を要請され、ゼミ学生を中心に学生ネットボランティア活動として、弘大ネットパトロール隊を設立したのが発端。その後、青森県教育委員会からも依頼され、青森県全体を対象としてネット見守り活動を行ってきた。その中で、この問題は見守り活動のみでは解決しない、子供・保護者への啓発がより必要と考えた。また、全国の大学で、学問の狭間であるこのような問題を対象に研究を行う方が極めて少ないこともあり、研究活動として位置づけ、研究会を設立した。

◆主な活動内容(1)

活動分類	普及・啓発活動 / 安全利用教室
事業名	ネットリスクの出前授業・講演・研修講座

活動の対象	保護者、PTA 研究大会、青少年（小学生・中学生・高校生・大学生・専門学校生）、教員、教育委員会、医師会、行政、子供を対象とするボランティア、地域住民など
対象人数	1 回あたり概ね 30 人～1000 人
活動の頻度	年に 100 回以上【1 回あたり概ね 1～3 人が従事】
<b>活動の特色</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員対象の講演、研修会において、教員免許状更新講習の科目としてネット問題を実施している。（平成 21 年より平成 25 年まで弘前大学、平成 28 年白梅学園大学で実施。平成 29 年青森大学予定、以後複数大学で実施予定、科目名の例「メディアリテラシー・情報モラル教育の実際と課題～ネットリスク教育を含む～」</li> <li>・ 医師会等医療関係者と連携して取り組んでいる。</li> </ul> <p>【古川中学校公開出前授業】</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

#### ◆主な活動内容（2）

活動分類	その他
事業名	子どものネット・スマホの長時間接触による脳の発達阻害・視聴神経等健康被害・ネット依存調査
活動の対象	青森県の中학생、高校生 4,000 人
<b>具体的な活動内容</b>	
平成 27 年、28 年に、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会の助成を受け、「青少年のネット長時間使用による健康被害を予防する情報モラル育成を目的とした調査・啓発・カリキュラム開発事業」の一環として実施。	
<b>活動の特色</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットに関する調査活動を、年に 1 回以上青森県教育委員会との連携により実施。</li> <li>・ 調査結果は記者会見を行い青森県内に広く周知。</li> <li>・ 研究会 Web、弘前大学の Web にも掲載したため、県外の方からも多数のアクセスがあった。</li> </ul>	

#### ◆主な活動内容（3）

活動分類	普及・啓発活動
事業名	公開出前研究授業の実施とカリキュラム開発の成果公表
活動の対象	小学生・中学生・高校生
<b>具体的な活動内容</b>	
平成 27 年、28 年に、「青少年のネット長時間使用による健康被害を予防する情報モラル育成を目的とした調査・啓発・カリキュラム開発事業」の一環として実施した。	
上記「子どものネット・スマホの長時間接触による脳の発達阻害・視聴神経等健康被害・ネット依存調査」の調査票を使用し事前調査を行い、それらを踏まえて学習指導案と教材を作成した。研究授業後に事後調査を行い、検証を行って改善カリキュラムを作成した。	

## 活動の特色

本公開研究授業は、青森県医師会と連携し実施した事に意義がある。

保護者のみなさま必見の公開授業！  
「ネットによる子どもの健康被害を考えよう」

こんなにオススメ！

- 小・中・高校生の子もいる
- 家庭のスマホ利用にルールを設けていない
- 子どもにスマホを持ちせよが悩んでいる
- ネットの依存やスマホ利用のリスクに詳しくない
- 子どもが健康被害の被害者に陥っている
- 子どもが入学中でもスマホをいじっている

**5.11 水** 受付 12:50～13:10  
本編 13:20～15:10

内容

- 「ネット・スマホの長時間利用による、健康被害、ネット依存を考えよう」  
大谷 良光（子どものネットリスク教育研究会 代表、弘前大学教育学部 前教授）
- 「健康被害、ネット被害から守るためのルールづくり」  
本間 史祥（青森市立古川中学校 技術科教諭）

会場  
青森市古川中学校 体育館内  
（青森県青森市久保田2丁目-1）  
駐車場はありませんので、最寄の駅までご連絡ください。

参加無料

お申し込み  
メールかFAXでお申し込みください。参加申し込み締め切り日：5月（月）  
★メール 氏名・所属・役職・ご連絡先を明記し、下記へ送信してください。  
m-fukuma@shinnihon-kyozai.com（株式会社青森県医師会 編集部）

## ◆主な活動内容（4）

活動分類	普及・啓発活動
事業名	子どものネット・スマホの長時間接触による脳の発達障害・視聴神経等健康被害・ネット依存を講演できるネットアドバイザーの養成カリキュラム開発
活動の対象	各都道府県で子供や保護者を対象に啓発をされている、ネットアドバイザー・インストラクターの方
活動の頻度	養成講座（他団体からの講師養成の場合も含めて）は、年に1回以上 養成講座のカリキュラムの作成中（公開は、研究会 Web に予定）

### 具体的な活動内容 【カリキュラムの項目】

ネット・スマホの長時間接触による・・・

1. 立体視異常（両眼視異常・近見反応失行）とその対策
2. ブルーLEDライトによる睡眠障害等とその対策
3. スマホ老眼・視力問題～最悪の場合は失明も～
4. 脳問題の予備知識と脳・前頭前野の発達曲線
5. ネット依存症者の症状と脳変質－その克服
6. 学力低下と脳の機能・器質的変質～東北大縦断的研究による脳画像で解明～
7. 言語能力低下のワイズ博士の比較研究
8. 睡眠時間と学力比較研究－REM睡眠の役割
9. 睡眠時間と海馬の大きさ－認知障害との関係
10. 視聴内容と感情の皮相化・鈍麻の比較研究
11. 子供の体に異変あり～ロコモティブシンドローム
12. ゲームやLINE トーク時と文字を書いている時、脳はどちらがより働くか？
13. 子供若者の性意識と性情報－そのリスク
14. 健康被害、ネット依存を「新ネット・生活習慣病」と位置づける積極的役割

◆団体の課題・今後の予定

**団体の課題**

任意の研究会で、現在会費の徴収を行っていないため活動の財源に困窮している。前年度は助成金が獲得できたため、新規の事業が組めたが、その後は、見通しがないことが最大の課題である。営利目的でない団体への研究や事業への行政による助成制度の確立が求められる。

**団体の今後の予定**

ここ数年で、スマホが幼児から老人までの生活における重要なツールとなり、そのため利用者の長時間接触が問題となり、脳の発達障害・視聴神経等健康被害・ネット依存問題が顕在化しつつある。特に、脳も体も発達する子供にとって、長時間接触によるリスクは、個人の問題のみでなく将来の社会を担う労働力問題でもある。「食育基本法」や「いじめ防止対策推進法」のような理念法、例えば「成育基本法」のような法律成立を見通した活動と研究の充実に取り組む。また、このような問題意識を共有する関係者、団体との連携した幅広い連携活動を展望する。